

令和3年度 名古屋若松寮・はぐみ・つむぎ 事業計画

1. 事業方針

- (1) 施設移管後6年目を迎えた。名古屋若松寮として積み上げてきた良いものは残しつつ、新たな体制で更なる支援強化を図っていく。
- (2) 2軒目の地域小規模児童養護施設「つむぎ」の運営基盤を作る。

2. 事業運営基本計画（事業目標）

- (1) 常に子どもたちに寄り添い、安全で安心できる生活環境作りに努める。
- (2) 子どもの権利擁護に努めるとともに、職員の質の向上と支援充実を図る。
- (3) 子ども個々の状況を把握し、自立に向けた支援を目指す。
- (4) 地域小規模児童施設「つむぎ」の運営の基盤作りを図る。
- (5) 家庭的な食環境の整備に努め、子どもの食育に繋げる。

3. 具体的計画

- (1) 小規模グループケアという特性を活かし、常に子どもの気持ちに寄り添い支援する。小さな変化などにもアンテナを張り、暴力・圧力を感じる事がなく、誰もが安全で安心だと思える生活環境を整える。
- (2) 日常の中で些細なことでも褒め、認め、少しずつでも自己肯定感が高まるよう支援する。また、子ども会議や個別でのヒアリングなど意見表明をできる場も保証しつつ、自分の権利、他者の権利についても伝えていく。職員は、実践の中でのOJTを中心に外部研修会等を通じて、質の向上、支援充実を図る。
- (3) 子ども個々との話し合いをもとに自立支援計画書を作成・見直しをし、子どもと職員とで課題を共有し、将来的に自立に繋がるよう努める。高校生に関しては、中退者ゼロを目指し、卒寮生に関しては、進学・就職した先で安定した生活を確立できるよう支援する。
- (4) 2軒目となる地域小規模児童養護施設だが、中高生女子のみで、本体施設から少し離れた立地であるため、「はぐみ」とは違う環境となる。そのため、本体施設や「はぐみ」との連携を密にし、職員・子どもが孤立しないように努め、運営基盤作りを図る。
- (5) 「完全ホーム調理化」し、各棟で毎食調理を行うことで、より家庭的、より個別的な食事を提供していく。また、子どもと一緒に調理する、子どもが調理を覚えてもらう機会を増やし、食育に繋げていく。